

令和4年度 保護者評価集計 単位=人

◇評価基準 5・・・よくあてはまる 4・・・ややあてはまる 2・・・あまりあてはまらない 1・・・全くあてはまらない
*・・・わからない

	5	4	2	1	わからない	平均	昨年
1 学校は、スキルアップタイムなどを利用して、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる。	10	10	0	0	1	4.5	4.5
2 学校は、体験学習や読書などをおして、豊かな心を育もうとしている。	15	6	0	0	0	4.7	4.4
3 学校は、外遊びやパワーアップタイムを利用して、たくましい体を育てようとしている。	12	9	0	0	0	4.6	4.5
4 学校は、1～6年生の縦割り班活動(運動会・集会活動・栽培等)をおして、人間関係を深めようとしている。	12	9	0	0	0	4.6	4.7
5 学校は、保護者や地域の人材を生かした教育活動を行っている。	11	10	0	0	0	4.5	4.4
6 学校は、ICT機器を活用し、児童の教育活動に生かす取組みをしている。(R3新設)	12	8	0	0	1	4.6	4.4
7 お子さんは、授業が分かりやすいと言っている。	6	14	1	0	0	4.2	4.2
8 お子さんは、学校が楽しいと言っている。	13	7	1	0	0	4.5	4.6
9 お子さんのことが気になる時、学校の職員に気軽に相談できる。	14	5	2	0	0	4.5	4.5
10 学校は、児童に挨拶ができるように指導している。	8	11	2	0	0	4.2	4.4
11 家庭は、お子さんに挨拶ができるようにしつけている。	5	14	2	0	0	4.0	4.6
12 学校は、児童のよい点をほめて伸ばす指導をしている。	12	9	0	0	0	4.6	4.5
13 家庭は、子どもたちのよい点をほめて伸ばす指導をしている。	2	15	3	1	0	3.7	3.9
14 学校は、児童の様子や学校での出来事を積極的に伝えている。(学級だより等お便りや訪問・ホームページ更新など)(R3新設)	13	8	0	0	0	4.6	4.3
15 家庭は、学校からのたよりや通知文は必ず目を通してている。	12	9	0	0	0	4.6	4.7

<自由記述>

- ・お昼の放送(ゲストひよりちゃん)がとても良かったです。質問に対して理由も含めてしっかり自分で答える。すごいなーと思いました。
- ・少人数校だからこそできる、一人一人にスポットライトが当たり、自分で発信する機会があるような取り組みをして頂けたらうれしい。
- ・意見は思いつきませんが、私にできる事はPTAとは関係なしに協力したいと思います。
- ・コロナ禍ではあるが、これから児童数も減っていく傾向にありそうなので更なる地域共有な取り組みをして頂きたい。地元ながら何処が誰のお家か、児童や中学生が居るのか把握できていない。親同士での意見交換も、結局仲良しグループの範囲の為、三沢全体がわかりません。何か方法があればと思います。
- ・協力しながら、色々なことに感謝し、行動、発言を行う。
- ・今まで以上、先生達が楽しんで明るい姿を子供達にこれからも見せてもらえると助かります。
- ・夏の下校時、暑いからと言って学校まで保護者が迎えに行くことについて、三沢だけ暑いわけではないので、保護者に対し他の学校と共通の対応してほしい。暑さ対策についても夏前のPTA役員会などで話し合い、日傘やクールタオルの使用など話し合って共通理解ができれば良い。

保護者評価に対する考察と手立て

ご多用の中、アンケートへのご協力ありがとうございました。今後の学校教育活動の参考とさせていただきます。考察と手立てについて以下にまとめましたのでご覧ください。

- 15項目中14項目で4.0以上であり肯定的な評価をいただきました。前年と比べるとプラス3ポイントが(2 体験学習・読書)(14HP 等情報公開)、マイナス6ポイントが(11 家庭のしつけ)でした。特に「13 家庭は、家庭は、子どもたちのよい点をほめて伸ばす指導をしている。」の3.7は昨年より下回っており、本校の教育方針の自己肯定感を伸ばす取組と連携した指導がこれまで以上に必要だと考えられます。
- 2の評定が見られた7、8、9、10、11、13への手立てを以下に述べます。

7 お子さんは、授業が分かりやすいと言っている

子供たちにわかる楽しさを味わわせるために、ICTの活用を始めとして、子供たちが学び合う授業づくり等、主体的に学習に取り組める授業を実践できるよう研修します。個々の学習状況を机間指導やふりかえりで把握し、理解が十分でない場合には個別指導や繰り返しの指導で学習内容の確実な理解ができるようにしていきます。

8 お子さんは学校が楽しいと言っている

13 家庭は、子どもたちの良い点をほめて伸ばす指導をしている

子供が楽しめる機会として、縦割り遊びや全員遊びなどの児童会活動を充実させます。子供と1対1の丁寧な対応を心がけると共に、コミュニケーションの機会を増やします。子供の良い点を積極的に褒め、クラスや学校での居場所づくりを心がけます。子供の「良さ」を家庭に伝え、家庭と連携して、家庭でも子供が褒められる機会を増やすために、強化月間に取り組みます。

9 お子さんのことが気になるとき学校の職員に気軽に相談できる

保護者の皆さんがもっと気軽に教職員と話が出来るように、教職員からも日常的に声かけを行います。皆さんもご来校の際にはぜひお声かけください。担任だけでなく、管理職や養護教諭等、誰にでも話ができる学校にしていきます。

10 学校は、児童に挨拶できるように指導している

11 家庭は、お子さんに挨拶できるようにしつけている

学校では、生活目標と関連付けて、年度当初の挨拶の定着を図ります。特に4月の登校指導では学校と家庭が協力して挨拶の指導し、1年間の良い流れをつくりましょう。

タイミングの良いあいさつ習慣の定着には時間がかかりますので、たとえ理想的なあいさつ(大きな声で、ふさわしい態度で)ではなくても、普段の様子より良くなっていれば認め、ほめ、未来に向かって望ましい態度がとれるようにしていきたいと考えています。家庭と学校が協力して指導しましょう。